

私の名前は綾月怜子。
専業主婦です。家族は
愛する旦那様とそのお義父様。
まだ新婚ホヤホヤなんです。

子供はまだいません…。
作りたくても作れない
原因があるんです。そう、
旦那様はED…いわゆる
勃起不全なんです…。



みんな変わらず元気そう
でした。お酒も入り、
思い出話に花が咲きます。

私の思い出と言えはよく
担任の先生にセクハラ
された事……。

思い出したくなかった
のですが、その先生も
来ていたんです…。



早速、来ました…
セクハラ攻撃……。

わざわざ私の隣に来て
「前よりでかくなって
ないか？おっぱい」と
言ってきました。

この先生、ほんとに嫌い
なんです。臭くて不潔で
がさつで……今日も
臭いです…。



見たくはなかった
のですが……。

先生の股間のあれが……
パンパンに張ってるん
です。

旦那様とご無沙汰だったんで
こんな先生のものでも
反応してしまうんです……。

先生は胸だけ触らせると
しつこく迫ってきました。

すごくしつこいので
ちよつとだけなら…
とOKしてしまいました。

…でもそれが間違いの
もとでした。



先生はトイレまで私を
連れ込むと服をたくし上げ
私の乳首に吸い付きました。

いやらしい舌使いを
してきて執拗に舐めて
きます。正直気持ち
悪かったです…。

う…ん

でもそんな気持ちとは
裏腹に少し感じている
自分がいたんです…。



いやらしい音を立てて
乳首にむしゃぶりつく
先生を見ていると
なんだかこっちも息が
荒くなってしまう。

旦那様以外で身体に
触れられたのは
久しぶりだったからかも
知れません…。

大嫌いな先生でしたが
この時ばかりはもつと
して欲しいと思って
しまいました。



先生の乳首の攻めは
激しくなるばかりです。

ああ

あああ

んあッ

中年の男性らしい
ねちっこい攻撃に
私のあそこはじんと
痺れっぱなしでした。

先生はカチカチになった
股間を私の身体にぐいぐいと
押し付けてきます…。



興奮しきった先生は
フェラを要求してきました。

はぁ...
はぁ...

私はそれだけでは無理です
と言ったのですが
収まりがつかない
先生は無理矢理に.....



半ば強引に口に入れ
られました……。

久々に味わう硬くて
太いもの……旦那様の
じゃない他人棒……。
それも大嫌いな先生の……。

あぐ

洗っていない不潔な
おちんぽを口に突っ込まれて
すごく気分が悪かったです。



そして私の頭を
前後に激しく振り
イラマチオをされました。

先生の太いおちんぽが
喉奥まで入ってきて
とても苦しかったです。

先生のイラマチオは
容赦ないです。おちんぽの
根元まで突っ込んできます。

…いけない、朝ごはんの
用意をしなきゃ……

旦那様は一流企業の
サラリーマン。生活に
何の不満もありません…。





ピストンが激しくなり
ついに射精……。

口の中にこれでもかと
精液を出されました。

うぐっ
んあっ

先生の濃い精液が喉の
奥まで侵入して
息が出来ませんでした。

先生は精液を飲めと
命令してきたので
飲みました。

はぁ...
はぁ...

すごく不味かったです。
でも久しぶりに精液を
味わった気がします...

先生に、この後ホテルに
行かないかと誘われました。
私はここから先はまずいと
思ったのですが.....

身体の火照りが
止まりませんでした。

ホテルに行く事を
承諾してしまいました…。

今はただ火照りを静めたい…
そんな気持ちで先生と
ホテルに行きました。

ホテルに着くなり私を
押し倒して即ハメして
きました。

あッ?
♡

熱くたぎった先生のおちんぽは
先ほどのフェラよりギンギンに
硬くなっていて、私の奥深くまで
ずっぽりと入っていききました。



ゴツゴツとした先生のおちんぽが出たり入ったりを繰り返します。

久しぶりに味わったおちんぽが
よりもよって大嫌いな先生だ
なんて……

あ
ひん♡





先生の腰使いがどんどんと
激しくなっています。
旦那様には悪いんですけど…
正直とても気持ちよく
なっていました……♡

もつともつと激しく突いて
ほしい、でも口には出しま
せん。大嫌いな先生に感じ
たくないんですもの…
私の最後の抵抗です……。



先生の動きが早くなつて
いきます。中に出そうと
試みているようでした。

中だけはやめてください
と懇願したんですが……



駄目でした……。

先生の濃くて臭い精液が
中にどくどくと入って
きました。



先生が私のおまんこから
おちんぼを引き抜くと
入りきらなかった先生の
濃い精液がゴポゴポと
溢れ出てきました…。

妊娠しないか心配でした…。
旦那様には絶対に知られては
いけないんですもの……。



先生のおちんぼはまだ
萎える心配がないようです。
時間を置かずすぐにハメて
きました。

精液を潤滑液にして
ズポズポと激しい
ピストンをされました。
私はもう頭が真っ白で
何回もイってしまいました。



朝ごはんを食べ終えると
旦那様は会社へ……。

…でも、その前に
いつてらっしゃいのキス。
これが毎日の日課なんです。

気付けば計5回も
中出しされました…。
本当に妊娠が心配です。

先生はこのセックスを
盗撮していたらしく
脅してきました。俺が
したくなったらすぐに
飛んで来いと言われました。

でも不思議と怖くありません
でした。先生のおちんぽが
忘れられないかと思った
からです♥またこのおちんぽに
会えるかと思ったらお股が
キュンキュンしちゃいます♥



結局、毎日のように
呼ばれるようになりました。

あッ♡

ああ♡

学校が終わる放課後が
セックスタイムです。
先生のガチガチおちんぽは
萎える事を知らないのか
1日に3回以上はハメまくり
ます。

あぁ♡
すげー♡
あぁ♡

今や先生のおちんぽ奴隷と
化してしまいました。
黒光りした極太おちんぽで
毎日何回も突いて欲しい…
もうそれしか考えられなく
なっちゃったんです……。



…ですが、そんな毎日の
不倫が続くわけもなく、
ついにバレてしまいました…。

それも厄介な事に……



お義父様に……。



お義父様は私の携帯を
盗み見て知ってしまった
ようです…。

そしてギンギンに硬く
したあれを押し付けて
脅迫してきました。





言う事を聞く以外、
私に選択支はありません
でした。

でもお義父様の
大きなあれを見たら
このまま犯されても
いいかなと思ってしまっ
自分がいたんです…。

すっかり
淫乱になって
しまいました…。

私を自分の部屋に
連れ込むとすぐに
押し倒してきました。

そしてスカートを捲り上げると
パンティをずらし私のあそこを
べろべろと舐めてきました。

お義父様の舌は3本あるかの
ようにうねうねと動き回って
私のあそこを執拗に攻めたてて
きました。



お義父様…と言っても
お爺様なんですが……
何でもお歳を召された
頃に旦那様を儲けたそう
ですから……。

ぐっ
はぁん
あっ

お義父様、すごい性欲を
感じます。私のあることを
飽きずにと舐め続けて
きて私のあるそこはもう
びしょびしょです。

あぁ
だぁ
んご
んご
んご



お義父様のおちんぽは
文字通りヘソまで
反り返っていました。

ダメ
です！
親子で
こんな…

それにしてもすごい
大きさです…。

思わず絶句してしまいました。
亡くなったお義母様も
よくこんなものを受け入れたと
感心するくらいです。





親子でこんな事いけませんと
抵抗はしたんですが……。

誰か勃起したおちんぽを
挿入させない方法を教えて
欲しいのですが……。

あっけなく挿入を
許してしまいました…。

あぐう♡♡♡



そう、何の不満も
ないはずなんです…。

何の不満も……。

激しいピストンが始まりました。
凶悪なまでに太いおちんぽの
激しいピストンに私は泣き叫んで
しまいました。

先生のおちんぽも凄いと
思ったのですがお義父様のは
そんなレベルではありません。

多分、黒人さんと
比較しても大差ないかと
思います。





駄目でした……。

は♡
お♡
お♡
あ♡

まだ♡
出る♡
ん♡

誰か外に出させる方法を
教えて欲しいです…。



それから言うもの、
お義父様の行動は
大胆さを増しました。

トイレでの朝フェラ。
お義父様の極太おちんぽに
私のあごがはずれるかと
思いました。

朝勃ちでカチカチに硬くした
お義父様のおちんぽは
なかなか射精してくれません。

後ろで旦那様が
「親父、早く出ろ!」と
せかしています。文字通り
早く出して欲しいです……。





私は旦那様のためにも
お義父様に出していただく
ため頑張りました。玉も
刺激しながらじゅぽじゅぽと
音を立ててフェラをしました。

私は高速で前後に頭を
振ります。お義父様は
いきそうになったのか
持っていた新聞をぎゅつと
握りました。

ん

うぐ





朝一番の精液は濃く、
喉の奥まで絡み付いて
きます。お義父様の無言の
プレッシャーに思わず
ごつくんしてしまいました。

凄く臭くてまずかったです...。
これを毎日と思うと嫌気が
さします。朝ごはんの味が
不味くなりそうで....。

旦那様が出勤をすると
家には二人だけ…

ふあ
♡

いあ
♡
いあ
♡

当然のようにセックス
三昧です。





お義父様の絶倫具合が
凄すぎて夕方までに
5回以上は中出し
されました。

出してもすぐにギンギンに
なるので私のおまんこは
もうお義父様のおちんぽの
形になっていると思います…。

あ〜♡
♡!!

お義父様の行動は
エスカレートして
いきました。

うぐっ
はぁん♡
あぁ♡

旦那様が隣で寝ているにも
かわらず普通にセックスを
してきます。私は声を出さない
ように耐えるしかありません
でした。

ギシギシとリズミカルに
鳴るベッドの音で旦那様が
起きないか心配です。



妻

つまよく

欲





お義父様は満足したのか
ずるりとおちんぼを
引き抜きました。

これでお帰りに
なるかと思っただの
ですが……

はあ...
はあ...

はあ...



萎える事を知らない
お義父様のおちんぽは
おまんこに入っている
精液を中に押し込むように
また挿れてきました。

ローション代わりになった
精液がお義父様のおちんぽを
ぐちよぐちよにしています。

いやらしいピストンの
音が旦那様の所まで
響きます。

隣で犯されているとも
知らないで寝ている
旦那様を見ていると
背徳感しか感じません。

……でもごめん
なさい、あなた。

私、もうお義父様のおちんぽなしでは
生きられない身体にな
ってしまいました。

もしかしたら旦那様に
新しい子が出来るかも
しれません。



先生の子かお義父様の子に
なるでしょうけど……

うふふ……♡



終

でもやっぱり不満
なんです……欲求が…。

セックスが無いだけで
こんなにも欲求不満になる
だなんて思ってもみなかっ
たんです……。

旦那様は愛しているの
だけれども……
ここが欲しがって
るんです。



こうでもしないと
身体の火照りが
取れないんです。

おちんぼが恋しくて
恋しくて。ここに硬くて
太いの欲しい、そう
思っちゃうんです…。

もちろん旦那様のだけです。
他人棒なんていやです。



…でも時々とは思っちゃう
んです。他人棒でも
いいかなって……。

はぁぁん♡
すっごく♡

だぁぁもう♡
ダメエ……♡
ふん♡

抑えきれない性欲が
ついそんないけない事を
考えてしまうんです。

今日も自分の手でイって
しまいました…やっぱり
切ないです。



今日は同窓会に
お呼ばれしました。

今夜は遅くなっても
いいよと旦那様が言っ
てくれたのでお言葉に
甘えさせていただきます ♡

